HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	HUSCAP掲載に当たってのまえおき
Issue Date	2022-04
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/85324
Type	report
File Information	preface_2022-04.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

HUSCAP 掲載に当たってのまえおき

1995 年 7 月 26 日、北海道大学札幌キャンパスの古河講堂からダンボール箱に入れたまま放置された人間の頭骨6体が発見された。当時この建物を管理していた文学部は調査委員会（古河講堂「旧標本庫」人骨問題調査委員会）を設置して、これらの遺骨の来歴について調査を開始した。その過程で出土地が明らかになった遺骨については関係者との協議の上で、謝罪と返還を行った。

これら一連の経緯を調査委員会では以下の 3 冊の報告書として編集し刊行した（調査委員会の名称は最初の報告書とⅡでは「調査委員会」だが III のみ「調査特別委員会」とされている。なお、最初の報告書の刊行主体は「北海道大学文学部」とされているが II と III については大学院重点化後に刊行されたため、刊行主体は「文学研究科・文学部」となっている ）。

『古河講堂「旧標本庫」人骨問題報告書』（1997 年・平成 9 年）（以下では『報告書 I』と称する）

『古河講堂「旧標本庫」人骨問題報告書 II』（2004 年・平成 16 年）（以下では『報告書Ⅱ』と称する）

『古河講堂「旧標本庫」人骨問題報告書 III』（2010 年・平成 22 年）（以下では『報告書Ⅲ』と称する）

研究目的で持ち出された、主に先住民族の遺骨の返還・帰還（repatriation）が国際的な問題となっているが、この文学部の取り組みは、日本の研究機関による遺骨の来歴調査と返還の先行例と見なすことができる。特に北海道大学で行われた植民学や人種論が日本の植民地支配を下支えしたことへの言及もあり、大学の脱植民地化という今日的な課題への示唆を読み取ることもできよう。歴史的資料としてここに電子版を掲載することにした。なお肖像権に触れる可能性のある顔写真は削除することにした。

なお、報告書 I および II には関係者から批判が寄せられた内容が含まれており、報告書 III で再検討と訂正がなされている。それは次の部分である：報告書 I の第 V 章「「オタスの杜」の頭骨について」に対する批判は、報告書 II の第 II 部「「報告書 I」第 V 章の再検討」で扱われており、さらにその報告書 II の第 II 部に寄せられた再批判に対しては、報告書 III の第 III 部で検討が加えられ両報告書の訂正がなされている。よって、報告書 I 第 V 章と報告書 II 第 II 部に関しては、報告書 III 第 III 部を合わせてお読みいただきたい。

2022 年 4 月

北海道大学大学院文学研究院